

竹富南航路（生活保全航路）の整備に向けた住民合意形成への取り組み

石垣港湾事務所 工務課 ◎ 嶋原 茂
○ 金城 健吾

1. 目 的

現在、開発保全航路として竹富南航路(約 2.5km)が整備されているが、その先が未整備であることから、海難事故の発生や早朝・夜間における急患搬送ができないなど、海上交通が生命線である離島において安全・安心が脅かされている状況にある。

このため、地域住民や来訪者の安全・安心と航行する船舶の安全を確保するため、竹富南航路（生活保全航路）の延伸整備が求められている。

航路の延伸整備にあたっては、航路ルートを決める必要があるが、ルートの位置によっては、運航の安定性、航行距離・時間、環境影響等に違いが生じる。従って、航路計画の策定については、生活環境に密接に関わる地域住民、関係者等の理解と協力を得ることが重要となることから、透明性を確保しつつ幅広い合意形成を図りながら検討を行った。

2. 内 容

1) 住民説明会の実施及び意見収集

航行ルート選定にあたっては、住民説明会を通じて、意見収集を行った。

2) P I（パブリックインボルブメント）の実施

竹富南航路の計画策定の検討においては、P Iを実施し、積極的に情報を提供し、幅広く意見を聴取しながら、検討を進めた。

3) 自主アセス（環境影響評価）の実施

開発保全航路の整備事業は、環境影響評価法及び沖縄県条例の実施対象とはなっていないが、世界有数のサンゴ礁海域である地域特性を考慮して、環境影響評価手続きに準じた自主アセスを実施することとし、広く住民から意見を求めた。

3. 結 論

1) 航行ルート選定にあたっての住民説明会を、各離島（西表島、竹富島、小浜島、黒島、波照間島）で2回実施し、約170人に対して説明を行った。その結果、131名の方から意見が寄せられた。

2) 竹富南航路計画の策定に関するP Iでは、検討内容に関する報告書を石垣港湾事務所及び自治体（石垣市、竹富町）において配布を行い、ホームページ等に掲載するなど周知・広報活動に努めた結果、約140部を配布し、ホームページには約900のアクセスがあった。また、64名の方からアンケートが寄せられた。

3) 自主アセスの実施については、6月に環境影響評価方法書に相当する図書、8月に環境影響評価準備書に相当する図書、12月に環境影響評価書に相当する図書の公告・縦覧を行い、西表島・小浜島・石垣市内において、説明会を実施した。その結果、意見提出期間における意見は無かった。

4. 今後の問題点

現時点においては、竹富南航路整備に対しての住民からの理解は概ね得られていると考えるが、今後、整備を実施する段階においては、世界有数のサンゴ礁海域である地域特性を考慮して、十分に環境に配慮した整備を進める必要がある。